

特集
Special

レポート
Report

インタビュー
Interview

エッセイ
Essay

レクチャー
Lecture

オピニオン
Opinion

TOP > [レクチャー](#) > [山下塾第7弾 防災と三助](#) > [山下塾第7弾 第八回講座 ボラセン&児童生徒の避難等](#)

山下塾第7弾 防災と三助

山下 輝男

第八回講座 ボラセン&児童生徒の避難等

初めに

第八回講座では、ボラセンの運営及び児童生徒非難に関する協働についてです。

ボラセンの運営

災害ボランティアが、有効に機能するためには、ボランティアセンター通称ボラセンが設立される必要があると思います。絶対条件とまでは云いませんが、被災者のニーズを把握し、ボランティアの状況を確認して、マッチングさせる重要な役割を担っています。

設立運営に定型がある訳でもありませんが、ボラセンが十分にその機能を発揮するにはコーディネーターが重要であると云われています。

コーディネーターに求められる資質はスライドの通りです。

発災の早い段階からボランティアが殺到するのが最近の傾向ですので、平素からの準備が必要です。

5(3) ボラセンの運営

○ボラセンの役割

① 理念：協働、被災者主体、地元主体

② 設立・運営：定型なし

○組織構成法：公設公営、民設民営、公設民営等

参加主体：社会福祉協議会、行政機関、ボランティア団体等
単独又は協働型等(近年協働型増加)

③ コーディネーターの役割大

地域熟知者、平素から関係機関との連携

組織運営力(総合調整力、中長期的視点等)

④ 平素からの準備が重要：適任者確保、ネットワーク、

ノウハウの共有、マニュアル化、資器材の準備、事前指定

⑤ 受入体制不全、偏在、関係機関の連携

ボラセンのスタッフについて

誰でも出来そうですが、ある程度の事前研修を受けることが必要で、事前登録制を採用している所が多いようです。被災者の状況

もよく理解し、一方、ボランティアの要望・希望、特性や状況を見極め、マッチングさせる調整能力が必要です。

5(4) ボラセン(VC)のスタッフについて

- 運営形態や規模により異なるが、相応のスタッフの確保が必要であり、**市民の協力が不可欠**
- 望ましき条件
 - ・ 講座・事前研修等終了者で、登録された者
 - ・ 災害救援活動経験豊富なNPOや被災経験のある者
 - ・ 業務の継続性上長期にわたり支援可能な者
 - ・ 地域熟知者

児童・生徒の避難等

次に児童・生徒の避難について考えます。

6 児童・生徒の避難等

- 東日本大震災石巻市大川小学校の避難失敗(84名死亡等)
学校に過失仙台地裁判決(H28/10/26)

原則は

- 在校時：
学校の管理下で避難行動、安全確認後地区毎集団下校、保護者による引取り
- 登下校時：
最寄りの避難所へ避難
- **住民による協力**
学校支援、集団下校時等の誘導等

児童・生徒の避難等については、在校時及び登下校時には、スライドのように行動することとされています。さる10月26日に、石巻市立大川小学校の犠牲となった児童23人の遺族等が、県と市を相手取り、損害賠償を求めた訴訟の判決が、仙台地裁で言い渡された。ポイントは以下の通りであるが、学校の危機管理能力を厳しく問うものとなったが、当然だ。空白の50分に為すべき事は多々あった筈だが、実態は不明であるが、船頭多くて何も決められなかったのか、優柔不断だったのか、リーダーは居なかったのか、余りにも情けない。

判決のポイントは

- ①石巻市と宮城県は原告29人に約14億2658万円を支払え
- ②教員等は遅くとも午後三時半頃までに石巻市の広報車による避難呼び掛けを聞き、大規模な津波襲来を予見できた。
- ③教員等が避難先に選んだ近くの交差点付近（三角地帯）は標高が低く避難場所としては不適當。学校の裏山に避難させるべきで、教員等には結果回避義務違反の過失がある。

いざという場合に、近傍個人等は学校に協力することを考えていいのではないかと史料する。子供の数に比較し教員の数に余りにも少ない。猫の手も借りたい筈だ。

コラボの促進と課題

公助とのコラボは、今その緒に就いたばかりであり、市民が行政や指定公共機関等にどのような協力をするか、それを促進するためには何をどのようにすればいいのか今後の課題かと考えます。

まだまだやるべき、研究検討すべきことが多いですが、国民、市民の意識がコラボの重要性・必要性を認識し始めている現在、それらは解決できるものと確信します。

7 協働の促進と課題

○協働の有効化・促進のために
(市民の協働場面は多々あり)

- ① 関係機関連絡協議会
- ② 協働を目的・狙いとした訓練の実施
- ③ 各種マニュアルの整備
- ④ 協定等の締結(災害救援NPOは協定締結不要)

○共助の課題

- ① 警報や情報等の伝達
情報弱者や外国人への伝達要領
- ② 避難行動要支援者の避難
具体的な支援体制の構築
- ③ 残留(希望)者の有無確認と対応
- ④ 被災・災害情報の収集と所要の機関への報告
救出活動: 虫の目情報の重要性



今回の講座はやや短いですが、終わりとします。

キーワード ▶ [ボラセン](#)・[ボランティアセンター](#)・[三助](#)・[公助](#)・[共助](#)・[大規模災害対処](#)・[山下塾](#)・[山下塾第7弾](#)・[自助](#)・[防災](#)

いいね! 1

INDEXへ戻る

次の記事 [山下塾第7弾 第九回講座 自助全般、災害時心理特性、避難](#)
前の記事 [山下塾第7弾 第七回講座 警報・避難指示等と避難所](#)

[ページの先頭へ](#)

関連サイト [防衛省](#) [統合幕僚監部](#) [陸上自衛隊](#) [海上自衛隊](#) [航空自衛隊](#)

